

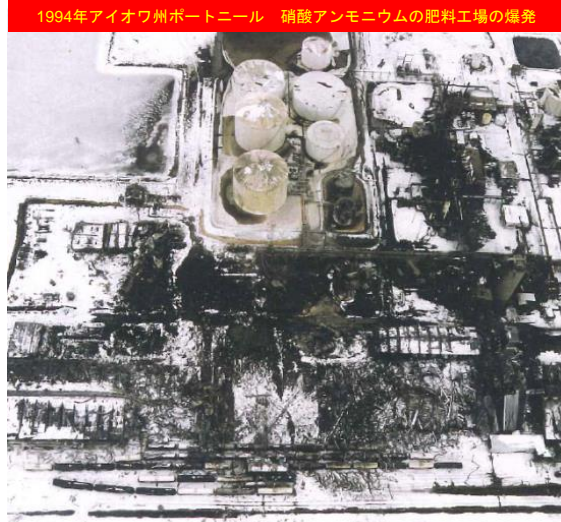
## 急いては事を仕損じる!

2017年9月



紙くずをゴミ箱に捨てる時、あと4歩近づかなかった為に放った紙くずをゴミ箱に入れそこってしまったことはないだろうか? そして、紙くずを拾って入れなおす。何か得られたものがあるだろうか? 実際、ゴミ箱に戻り、ゴミを拾い、ゴミ箱に入れる余計な仕事が出来ただけだ。もし、あなたがやり直さなかったら? 誰かが代わりにやらざるを得なかっただろう。

同じことがプロセス安全にも言える。最初に正しくやらないと、やり直さなければならない! もしくは、誰か他の人があなたの代わりにやり直さなければならないだろう。しかし、プロセス安全の作業は床のゴミほど明白ではない。プロセス安全の作業(例えば、手順通りに機器を点検すること)を最初から正しく行わないと、あなた自身、同僚、周辺社会、環境などに深刻な影響が出る可能性がある。何時? 何処で? どの様に? など誰にも分からない。



1994年アイオワ州ポートニール 硝酸アンモニウムの肥料工場の爆発

### 何故重要か?

プラントでの「手抜き」は、多くのプロセス安全事故の発生原因となっている。例えば:

- 手順書通りになされない
- 対応処置を取らずにアラームを消音する
- プラントの状態確認の巡回に行かない
- チェックシートに記入する手間を省いてプラントの手順を実行する。あなたは何百回もこの仕事をしたかもしれないが、人間は良くても99%しか正しくできない。複雑さが中程度の作業でも、チェックリストを使用しないと手順を飛ばす可能性が約10倍になる。

これらはいしたことでない様に見えるが、重大な結果を招くことがある。手順が不適切、不正確、または不十分に使用されたことにより、多くの死亡事故や怪我を伴う重大な事故が発生している。例えば1994年12月、アイオワ州ポートニールの肥料工場で爆発があった。死者4名、負傷者18名を出し、工場は大きく破損し、化学物質の放出により環境にも大きな被害を及ぼした。米国EPAの事故調査チームは「爆発は安全運転手順が文書化されていなかったことによるもの」で、それが「プラントを爆発条件に至らせた」と結論付けた。

煩わしい仕事の場合はどうだろうか? 計器を読むために階段をたくさん登ったり、レベル確認のため囲いの鍵を外したり、バルブの開閉を確認するためプラントの端まで行くことが必要かもしれない。忙しい時には、これはちょっと省いても良いだろうと思いがちだ。誰かが次にやってくれるだろう、床のゴミの場合の様にと! しかし、もし誰もがその様に振舞えば、その仕事は決して行われることはないだろう。

### あなたにできること

- 常に手順を完全に守ること。手順が不正確または間違っている場合は、問題を上司に説明すること。彼らは、仕事が正しく安全に行われることを望んでいる!
- プラントの点検巡回をする場合は、きちんと漏れなく行える様、時間をとること。
- プラントを回って何か正しくないと感じたことは巡回シートに記入して、上司に注意喚起をすること。例えば、点検箇所へのアクセスが困難である、計器が校正されていないまたは作動していない、配管から何かわからない液が垂れている、攪拌機が振動している、ポンプが異音を発している、など。知らなければ、誰にも問題を解決することは出来ない!

**最初に正しく実行する時間がないなら、後からその時間を本当に取れますか?**

AIChE© 2017. 不許複製。非営利的な教育目的のための複写は奨励する。ただし、販売目的のための複写は、AIChEの同意書面なしには禁止する。 連絡先: [ccps\\_beacon@aiche.org](mailto:ccps_beacon@aiche.org) または 646-495-1371